



僕の想いと次の週末。

ヘーベルハウス
2.5世帯ものがたり
年末年始篇
～第3話～

二〇一三年。僕らはいっしょに暮らします。

一月一日。僕らはみんなで初詣でに来ていた。幼少のころ両親に手をひかれ、お参りに来ていたこの神社。いまは僕が、二人の子どもの手をひいている。僕が育ったこの地で、つきはこの子たちが育っていくんだ。二〇一三年、僕は実家を「ヘーベルハウスの2.5世帯住宅」に建て直す。そこに僕の家族と、両親と姉の七人で同居する。二〇一四年の消費税増税もせまっている。注文住宅が8%で課税されないために、今年の九月末までに契約を決めようと思う。責任をもって進めるべきことがたくさんある。でもその前に、家族みんなに伝えたい感謝の気持ちがたくさんある。父さん、母さん。やっと子育てを終え、自由な時間を手に入れたのに、まだ手のかかる幼子がいる家族との暮らし。認めてくれて、ありがとう。ずっと元気でいてね。由紀子姉さんは、いちばんそはで親のことを考え、いつも僕ら夫婦を気遣い、子どもたちをわが子のように可愛がってくれるね。ありがとう。これからもよろしくお願いします。妻へ。仕事に家事に子育てに、いつも笑顔で、一生懸命で、2.5世帯同居も前向きに応援してくれて。恵、本当にありがとう。翔太、春香。うちの子に生まれてくれて、ありがとう。きみたちにはこの先、いろんな楽しいことや、がんばらなきゃいけないときが、待っている。そしていつか、パパとママが会ったように、運命のひとに出会い、新しい家族に恵まれたら。パパが建てた家を、住み継いでほしいんだ。そんな未来のためにも、パパがんばるから。「いいこと思いついた！」姉が満面の笑みだ。「みんなでお金出しあってさ、2.5世帯祈願のおさい銭をしない？」「素敵ですね、由紀子お義姉さん！じゃあ、25千円！」「賛成！」「母も快諾。「めでたい！」父が笑う。「わくわく」「2.5、2.5」子どもたちがはしゃぐ。新しい吉田家は、七人の2.5世帯家族は、もう生まれているんだ。週末は、家族みんなで展示場に行こう。

年末年始篇(後)
※朝シリーズはヘーベルハウスHPへ。

2.5世帯住宅で、暮らしませんか？

考えよう。答はある。
ヘーベルハウス